

学童保育の利用に関する母親向けの実態調査 学童保育の課題は、「指導内容の充実」

学童保育指導員の資格事業等を通じて、子育てがしやすい環境の整備や保育人材の育成、学童保育業界全体の発展を目指す一般社団法人キッズコーチ協会(東京都世田谷区、代表理事:島根太郎/以下、当協会)は、昨年度と同様に、学童保育の利用実態や、保護者が学童保育に求めるサービスを明らかにすることを目的に、首都圏、中京圏、近畿圏に在住し、現在、小学生の子どもを学童保育に通わせている女性(母親)を対象に、学童保育に関する保護者目線の実態調査を行いました。

【調査結果のポイント】

- **学童保育の利用実態** (P.3~)
 - 利用している学童保育の運営主体は公設が66.8%
 - 学童保育を利用している母親の57.4%が「週に5回(日)以上」利用
 - 学童保育を利用する理由は「放課後に家庭で子どもの面倒をみられない」が84.7%
- **学童保育に対する期待** (P.5~)
 - 学童保育で過ごす時間を通じて一番身につけて欲しい能力は、「集団生活、集団行動への順応力」が61.4%
 - 2013年度と比較して増加した項目は、「自分なりに努力し、成長する力をつける」(4.8%増)
 - 2013年度と比較して減少した項目は、「集団生活、集団行動に順応する力をつける」(4.9%減)、「マナーや挨拶を身に付ける」(5.5%減)
 - 学童保育利用者の55.8%が小学校高学年(4~6年生)までの利用を希望
 - 学童保育を利用に際して期待したことは、「学校から近い」(86.1%)、「行き帰りが安全」(80.5%)が最上位に挙げられています。
- **学童保育に対する評価** (P.8~)
 - 現状の学童保育で満足度が高いのは、「学校や家から近い」(83.7%)、「行き帰りが安全」(70.8%)
 - 満足度が低かったのは「学校の勉強の補習ができる」(22.6%)「勉強に集中して取り組める」(21.6%)「費用」(20.0%)
- **今後の学童保育に向けて** (P.9~)
 - 学童保育に対する期待度と満足度からみる課題を抽出すると「指導員内容が充実」が『最優先改善項目』となっています。
 - 学童保育のサービス・プログラムにおいては、「体を動かす機会がある」(42.8%)を期待
 - 指導員には「子どもが信頼できる人柄」(62.1%)、「子どもと同じ目線に立つ」(59.6%)を期待

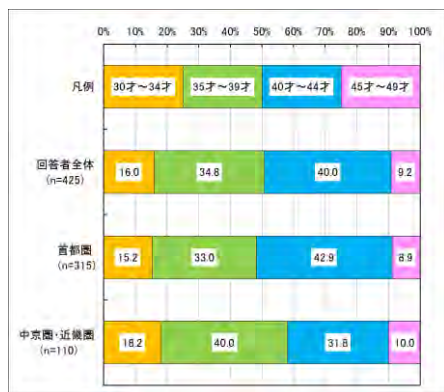
◀報道関係の方のお問い合わせ先▶

一般社団法人キッズコーチ協会(株式会社キッズベースキャンプ内)
広報担当:三沢 敦子
TEL: 03-5426-3123 / FAX: 03-3439-2266 / E-mail: pr@kidsbasecamp.com

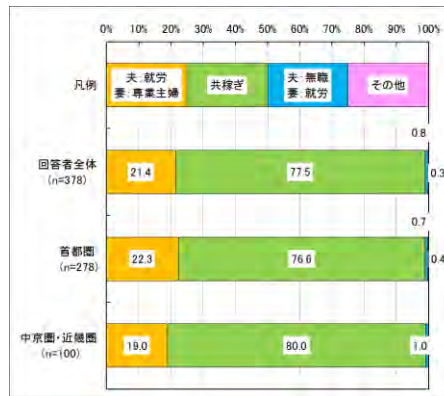
【調査概要】

- 調査方法 : インターネット調査(回答者の抽出や調査の実施は㈱マクロミルに委託)
 調査地域 : 首都圏(東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県/東京駅を中心とする半径 40km 圏)、
 中京圏・近畿圏(名古屋駅を中心とする半径 15km 圏・大阪駅を中心とする半径 30km 圏)
 調査対象 : 30 歳～49 歳で、現在学童保育を利用している母親
 サンプル数 : 合計 425 サンプル(首都圏 315 サンプル、中京・大阪圏 110 サンプル)
 調査時期 : 2014 年 7 月
 回答者属性 :

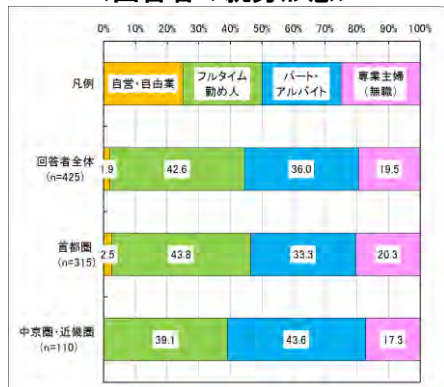
<年齢>



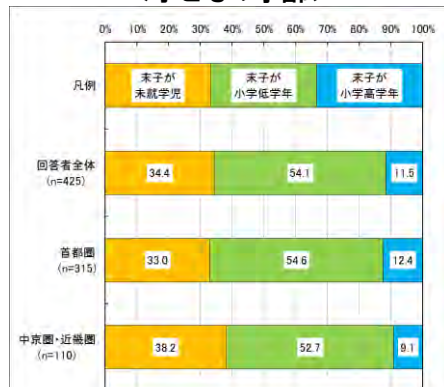
<家計形態>



<回答者の就労形態>



<子どもの学齢>



備考 :各調査項目については「地域別」、「家計形態別」、「母親の就労形態別」、「学童保育の設立主体別」、「利用料金別」に集計を行っておりますが、本リリースではその中から特に違いがみられたものや前年度と違いがみられたものを抜粋して記載しています。さらに詳細な調査結果をご希望の場合は、当協会までお問い合わせください。

【調査の実施背景】

子ども・子育て関連3法の中の児童福祉法の改正により、放課後児童クラブの質を確保する観点から、放課後児童クラブの設備及び運営について、省令で定める基準を踏まえて、2015年度より、市町村が条例で基準を定めることとなりました。

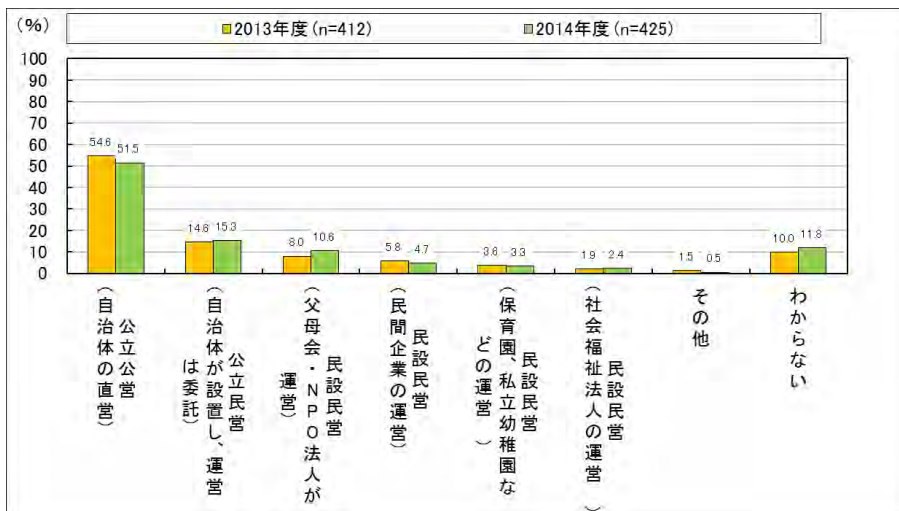
今後は、公設・民設の学童保育ともに、質・量の両面において、社会全体から一層の充実が求められていくと考えられます。今回の調査は、このような社会的背景を受け、利用者である母親の視点から、学童保育の利用実態や利用者としての評価・期待を明らかにし、今後、学童保育業界全体が利用者の目線に立って発展していくための一助することを目的に実施いたしました。

<キッズコーチ協会について>

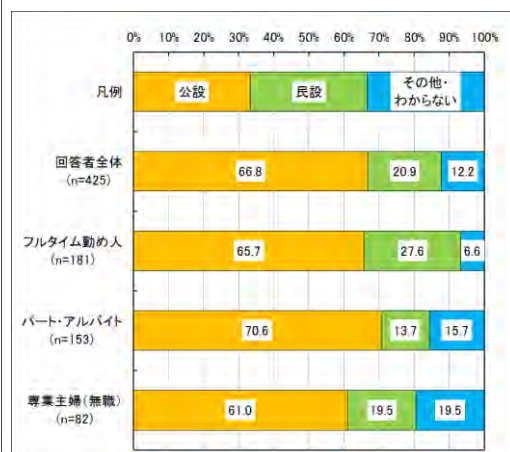
- 法人名 : 一般社団法人キッズコーチ協会
- 所在地 : 東京都世田谷区桜新町 2-10-12 ガレリア M202
- 設立 : 2012 年
- 代表理事 : 島根 太郎 (株式会社キッズベースキャンプ 代表取締役)
- 目的 : 『認定キッズコーチ』や、『キッズコーチ検定』を通して、子育てがしやすい環境の整備や、保育人材の確保及び質の向上、学童保育業界全体の発展に寄与する
- 事業内容 : 保育資格制度『認定キッズコーチ』の運営
子どもと関わるための基礎力の習得を目的とした検定『キッズコーチ検定』の運営

【学童保育の利用実態】

Q1.あなたが現在利用している学童保育の運営主体を教えてください。(回答は一つだけ)



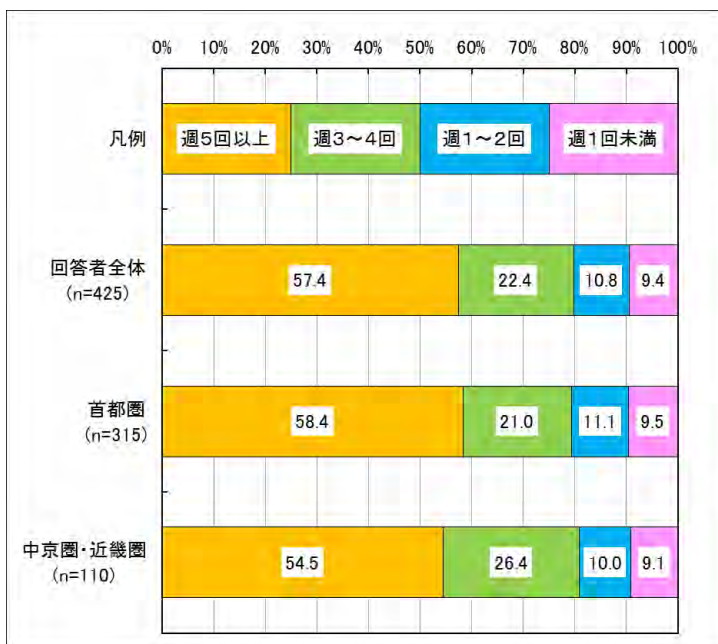
【就労形態別】



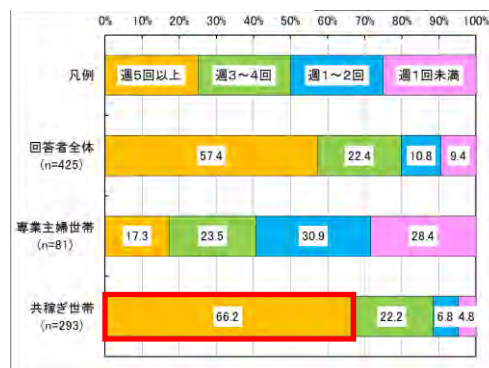
- ✓ 学童保育の運営主体をみると、回答者の 51.5%が「公立公営」と答えています。これに「公立民営」(15.3%)を加えた「公設」の学童保育を利用している人は、昨年度と同様、回答者の約 7 割に達します。
- ✓ 母親の就労形態別にみると、「民設」の学童保育は、フルタイム勤めの方が、専業主婦(無職)、パート・アルバイトよりも高い割合を示しています。

Q2.あなたのお子様は、学童保育をどれくらいの頻度で利用していますか。(回答は一つだけ)

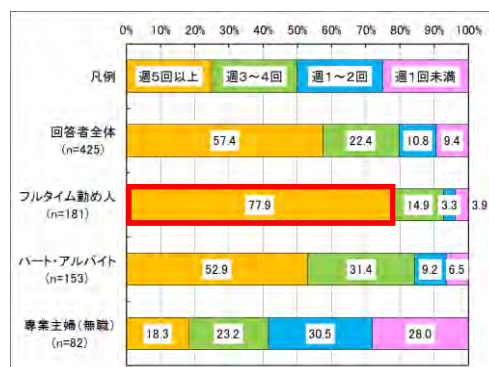
【全体・地域別】



【家計形態別】

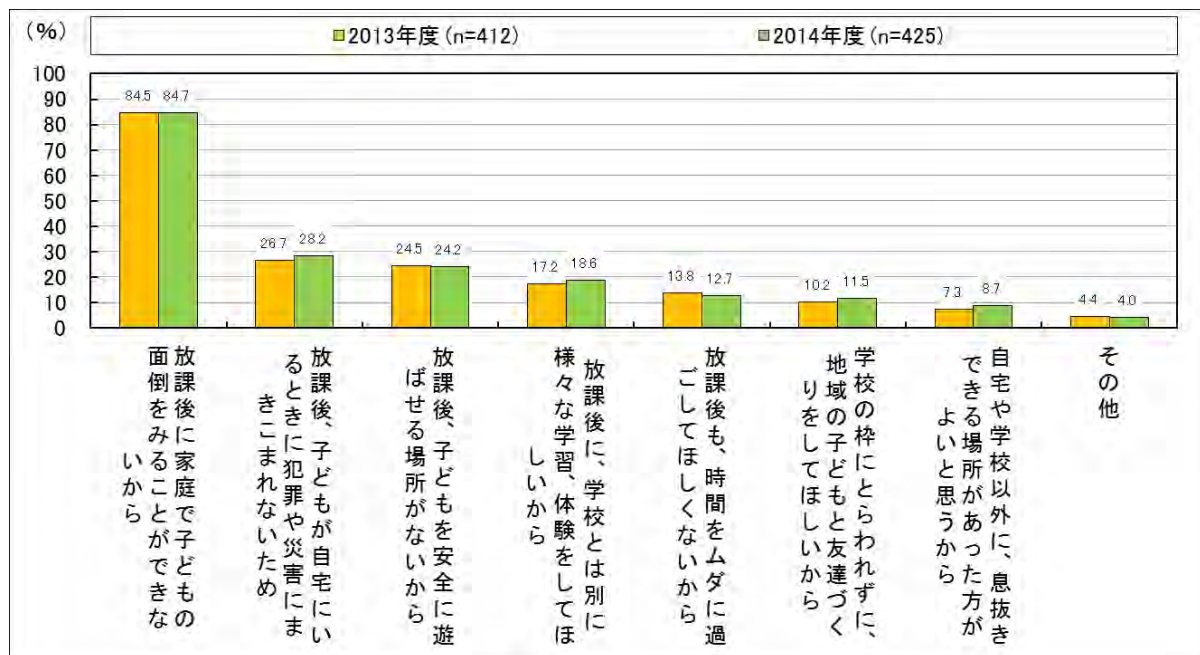


【就労形態別】



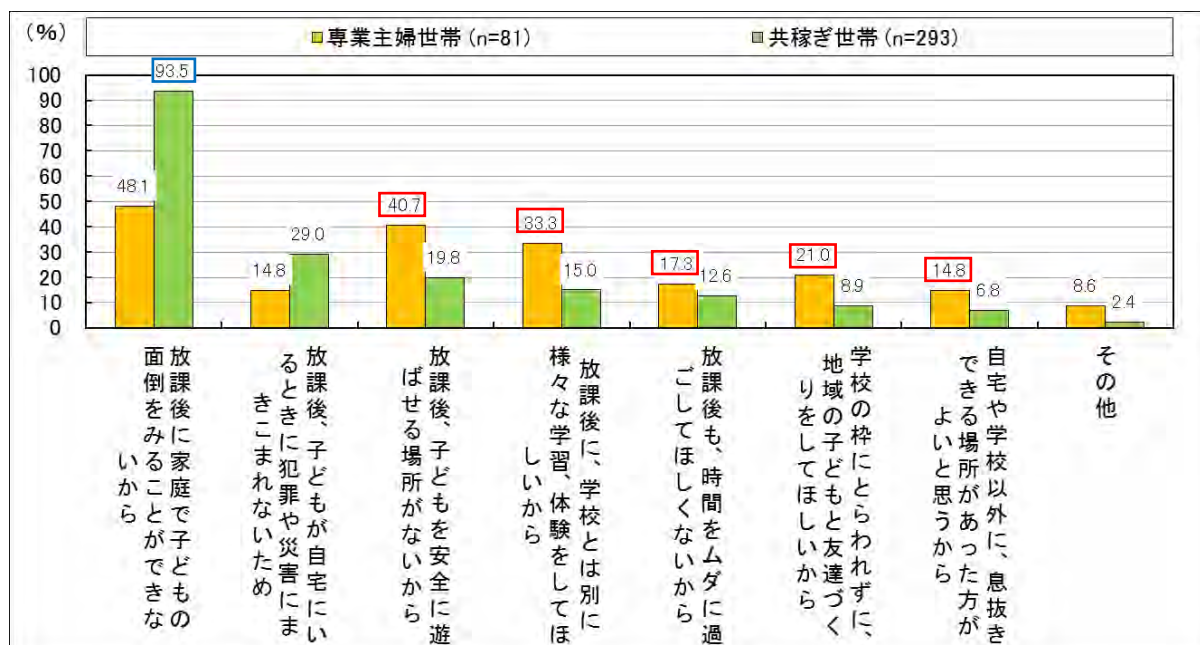
- ✓ 学童保育の利用頻度をみると、57.4%の人が学童保育を「週5回(日)」以上利用しています。
- ✓ 家計形態別では、共稼ぎ世帯の66.2%が「週に5回(日)」以上学童保育を利用しており、専業主婦世帯よりも顕著に高くなっています。
- ✓ 母親の就労形態別では、フルタイム勤め人の77.9%が「週に5回(日)」以上となっています。また、パート・アルバイトでは、52.9%が「週に5回(日)」以上、31.4%が「週に3回~4回(日)」となっています。
- ✓ 2013年度と2014年度の各項目における割合を比較しましたが、それぞれの項目には顕著な差異は見られませんでした。

Q3.あなたは、どのような理由で学童保育を利用していますか。(回答はいくつでも)



- ✓ 学童保育を利用する理由(3つまで選択)では、84.7%の人が「放課後に家庭で子どもの面倒をみるのができないから」を挙げています。次いで「放課後、子どもが自宅にいるときに犯罪や災害にまきこまれないため」(28.2%)、「放課後、子どもを安全に遊ばせる場所がないから」(24.2%)が挙げられています。
- ✓ 2013年度と2014年度の各項目における割合を比較しましたが、それぞれの項目には顕著な差異は見られませんでした。

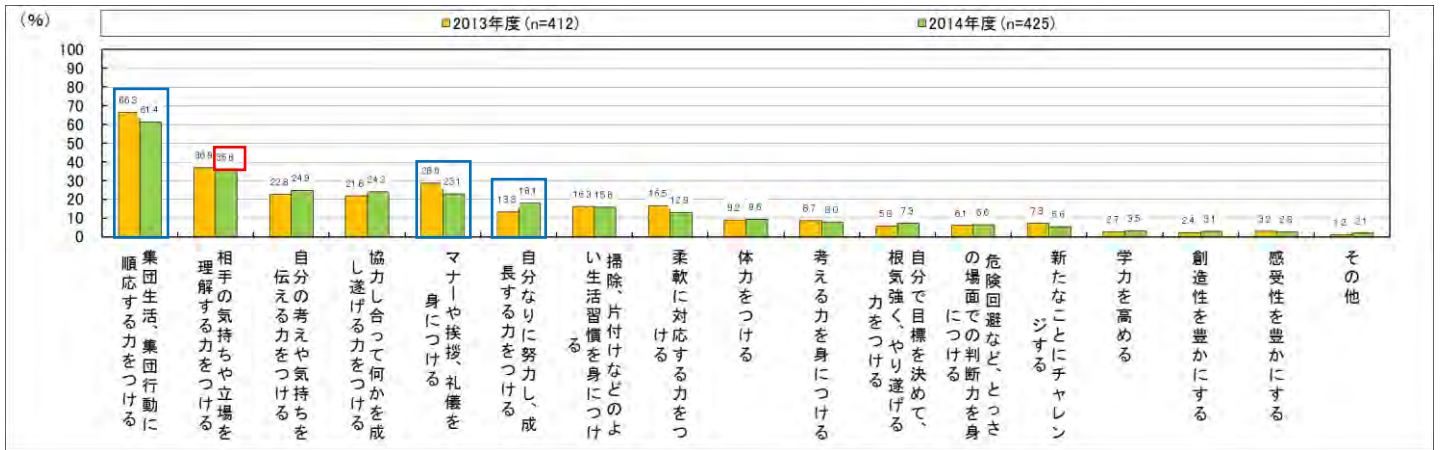
【家計形態別】



- ✓ 学童保育を利用する理由(3つまで選択)を家計形態別にみると、共稼ぎ世帯では「放課後に家庭で子どもの面倒をみるのができないから」が93.5%でした。一方、専業主婦世帯は48.1%にとどまり、「子どもを安全に遊ばせる場所がない」(40.7%)、「学校とは別に様々な学習、体験をして欲しい」(33.3%)、「放課後も時間を無駄に過ごして欲しくない」(17.3%)「学校の枠にとらわれずに、地域の子どもと友達づくり」(21.0%)、「自宅や学校以外の息抜きの場所」(14.8%)といった理由を共稼ぎ世帯よりも多く挙げています。

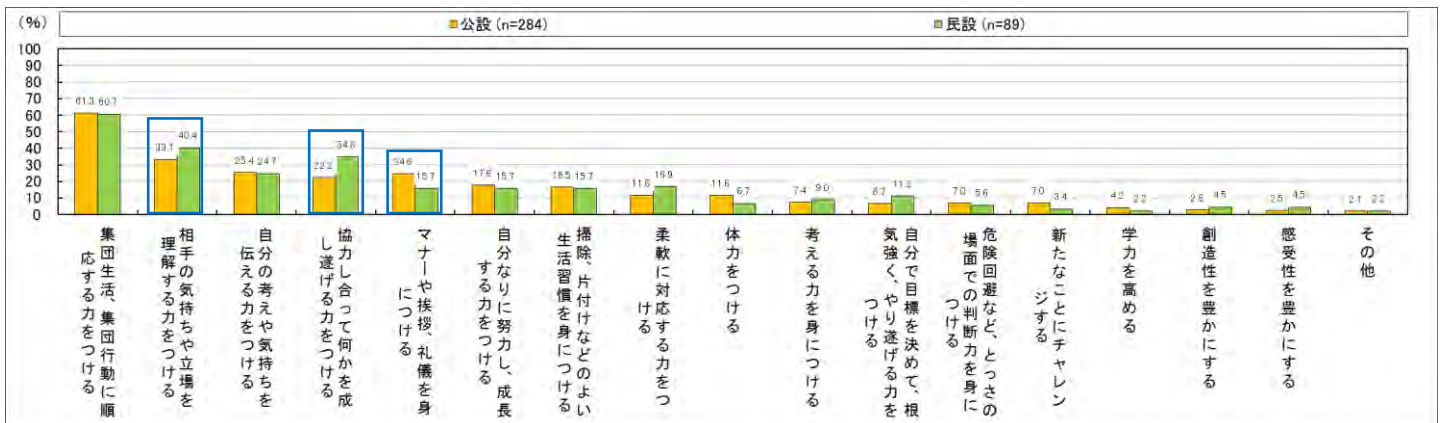
【学童保育に対する期待】

Q4.あなたが学童保育で過ごす時間を通じて、お子様に身につけて欲しい能力はなんですか。(回答は3つまで)



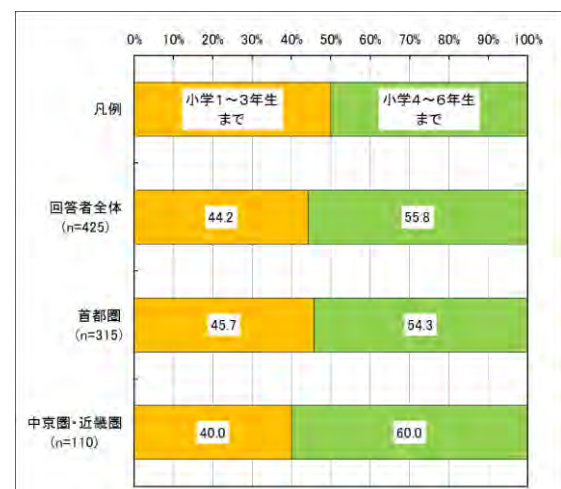
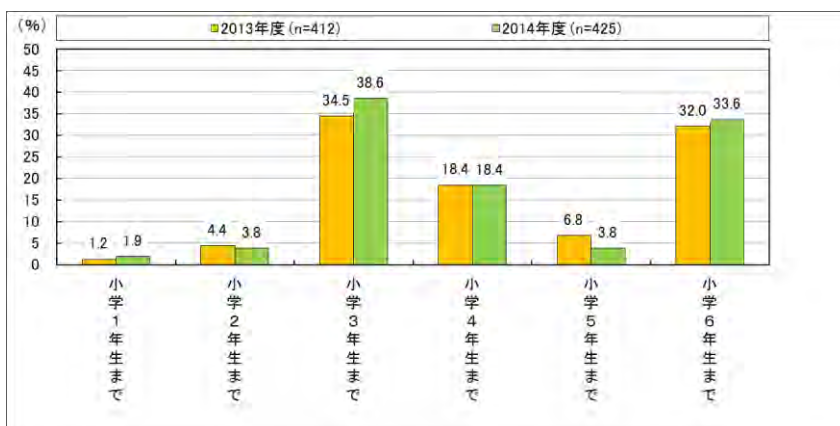
- ✓ 2014年度における学童保育を通じて子どもに身につけさせたい能力をみると、回答者の61.4%が「集団生活、集団行動に順応する力をつける」を挙げています。次いで、回答者のおよそ35.8%が「相手の気持ちや立場を理解する力をつける」を、およそ24.9%が「自分の考えや気持ちを伝える力をつける」を挙げています。
- ✓ 2013年度と2014年度の各項目における割合を比較すると、「自分なりに努力し、成長する力をつける」は4.8%増加しています。一方、「集団生活、集団行動に順応する力をつける」は4.9%、「マナーや挨拶、礼儀を身につける」は5.5%減少しています。

【設立主体別】



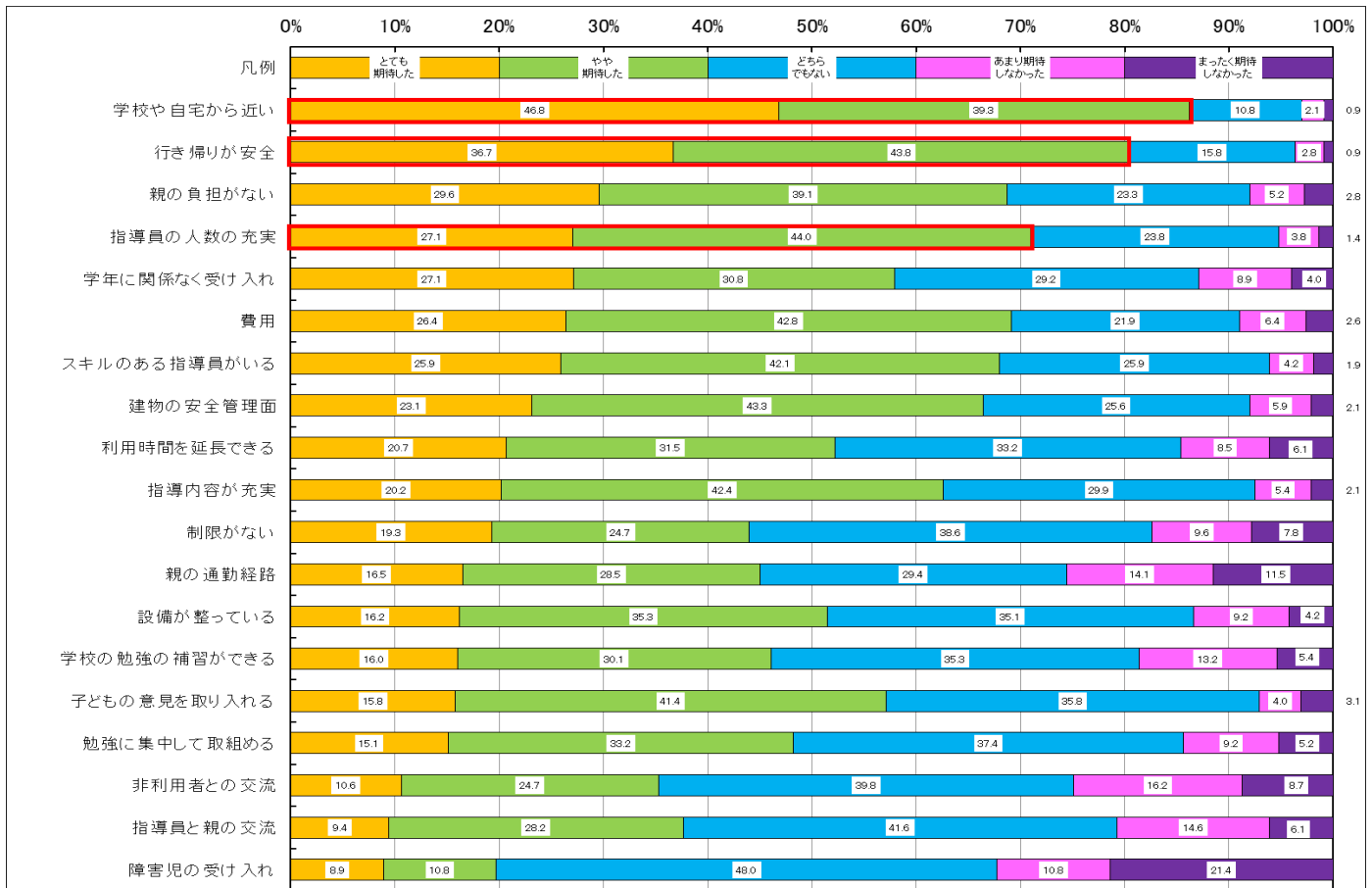
- ✓ 設立主体別では、民設の利用者の方が公設の利用者よりも、「相手の気持ちや立場を理解する力をつける」で7.3%、「協力し合って何かを成し遂げる力をつける」で、12.6%上回り、民設利用者は子どもの“社会性”“他者との関わり方”を育むことを望んでいるようです。
- ✓ 「マナーや挨拶、礼儀を身につける」では、公設の方が、民設よりも8.9%高い割合を示しています。

Q5.あなたは、お子様が何年生になるまで、学童保育を利用したいとお考えですか。(回答は一つだけ)



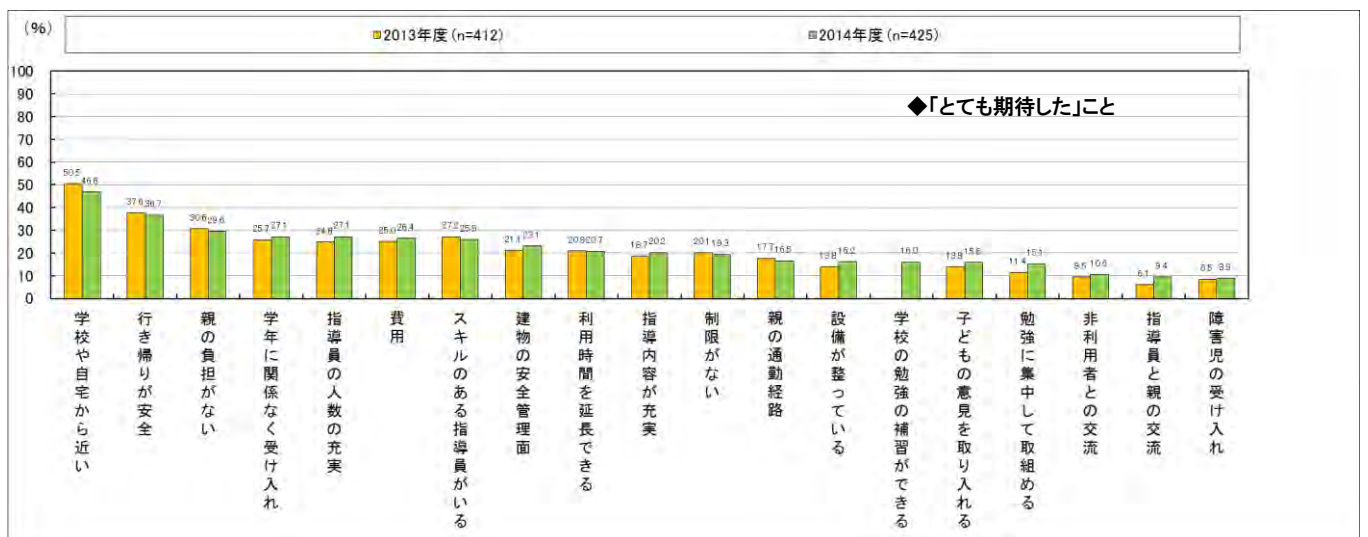
- ✓ 学童保育の利用期限(学齢)については、「小学3年生まで」(38.6%)と「小学6年生まで」(33.6%)の割合がほぼ拮抗しています。3年単位でまとめると、「小学校低学年まで」が44.2%、「小学校高学年まで」が55.8%で、高学年までの利用を望む人が多数派でした。
- ✓ 2013年度と2014年度の各項目における割合を比較しましたが、それぞれの項目において顕著な差異はみられませんでした。

Q6.あなたが学童保育を利用する前に、どのようなことを期待しましたか。(回答はそれぞれ一つずつ)



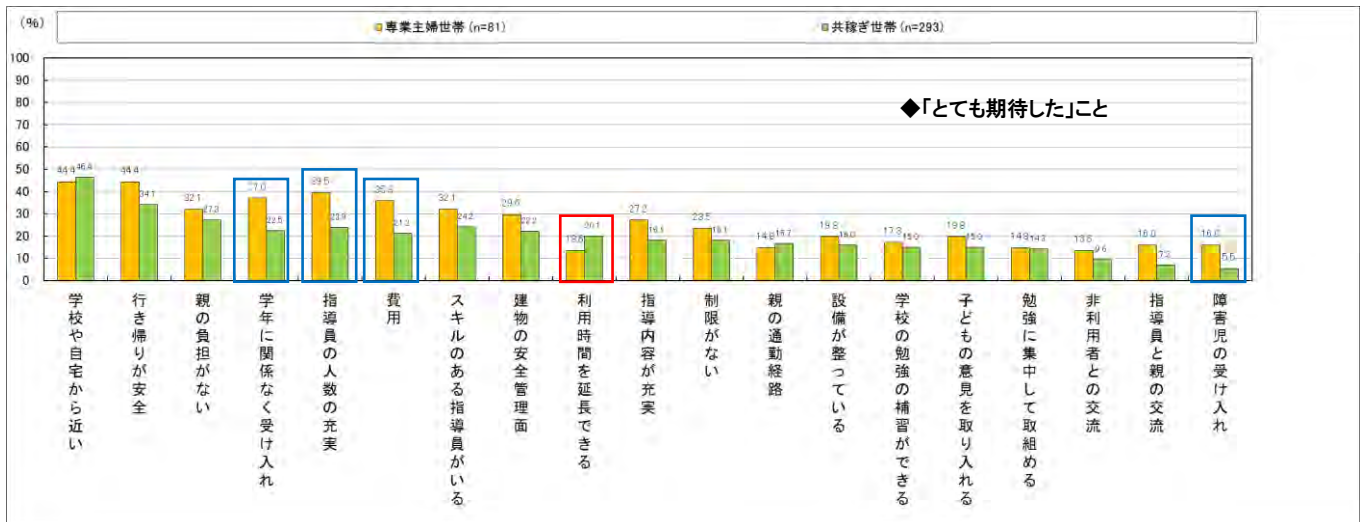
- ✓ 学童保育の利用に関する選択肢について、それぞれどの程度期待したかをたずねると、期待したこと(「とても期待した」と「やや期待した」の合計)では、「学校や自宅から近い」(86.1%)、「行き返りが安全」(80.5%)が最上位に挙げられています。次いで「指導員の人数の充実」(71.1%)という指導員に対する期待も挙げられています。

【前年度比較】



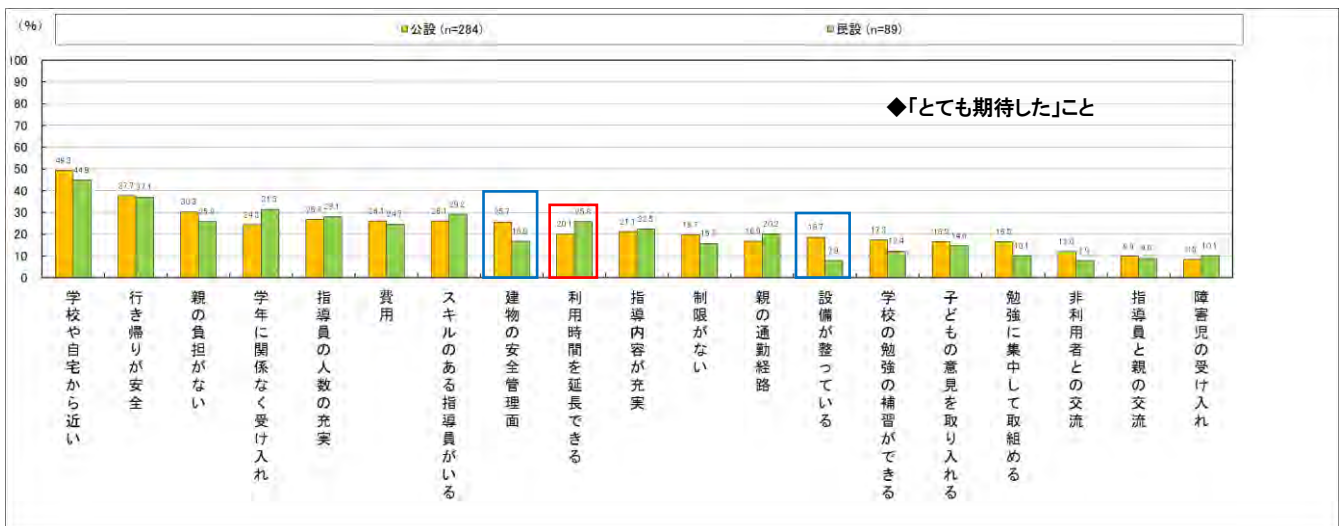
- ✓ 2013年度と2014年度の各項目における割合を比較すると、「学校や自宅から近い」は、3.7%減少していますが、それぞれの項目において顕著な差異はみられませんでした。

【家計形態別】



- ✓ 家計形態別にみると、専業主婦世帯は、共稼ぎ世帯に比べて「指導員の人数の充実」で 15.6%、「費用」で 14.6%、「学年に関係なく受け入れる」で 14.5%、「障害児の受け入れ」で 10.6%上回りました。その他、「行き帰りが安全」「スキルのある指導員がいる」「建物の安全管理面」「指導内容が充実」「指導員との交流」が共稼ぎ世帯に比べて高い割合を示しています。
- ✓ 「利用時間を延長できる」では、共稼ぎ世帯の方が専業主婦世帯よりも高い割合を示しています。

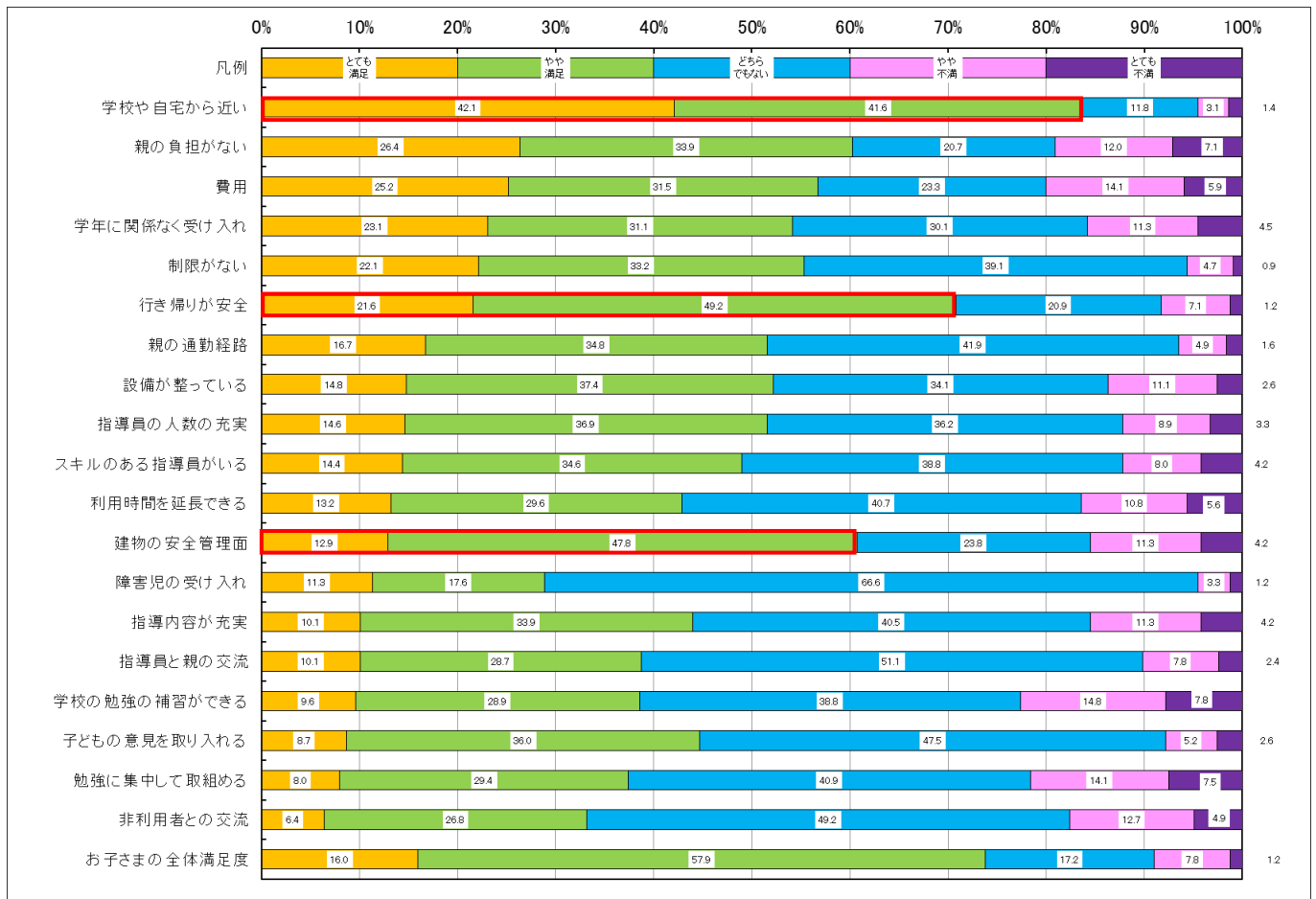
【設立主体別】



- ✓ 設立主体別にみると、「建物の安全管理面」「設備が整っている」では、公設の方が民設よりも高い割合を示しています。
- ✓ 「利用時間を延長できる」では、民設の方が公設よりも高い割合を示しています。

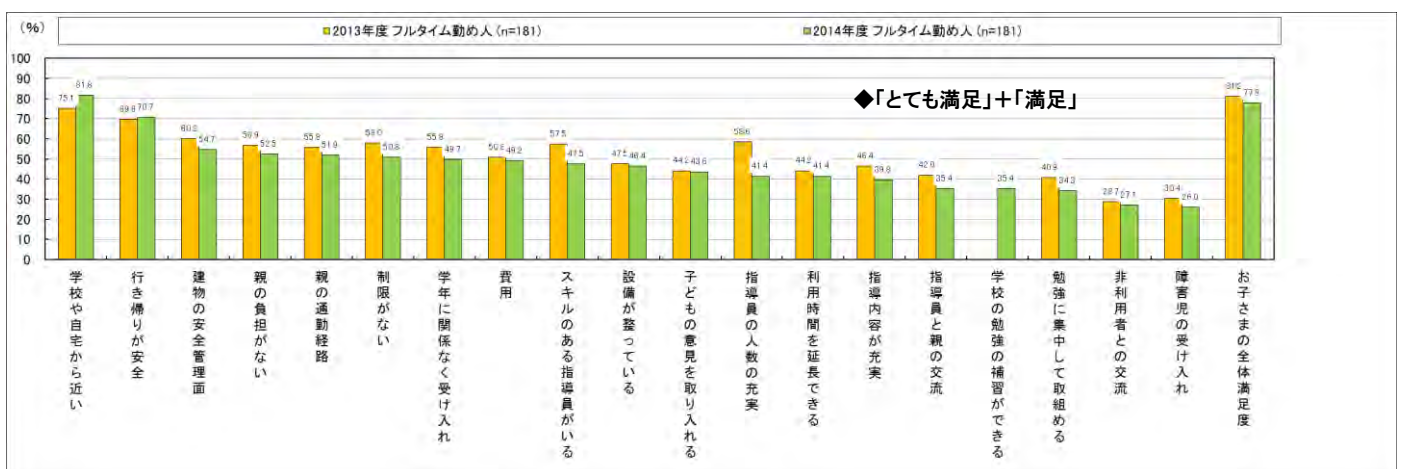
【学童保育の評価】

Q7. あなたからみて、現在利用している学童保育にどの程度満足していますか。(回答はそれぞれ一つずつ)



- ✓ 現在利用している学童保育について、満足度の高い項目(「とても満足」と「やや満足」の合計)をみると、前問で期待度が高かった「学校や家から近い」(83.7%)、「行き帰りが安全」(70.8%)といった項目は、満足度も高くなっています。一方、「やや不満」、「とても不満」が多かったのは「学校の勉強の補習ができる」(22.6%)、「勉強に集中して取り組める」(21.6%)、「費用」(20.0%)でした。

【母親の就労形態別(共稼ぎ世帯)】



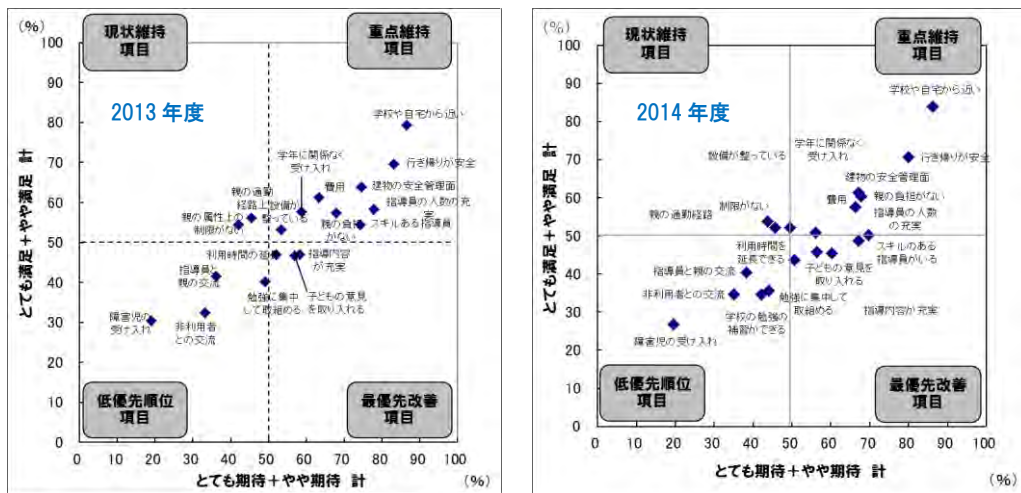
- ✓ 「満足(「とても満足」+「やや満足」の合計)」について、前年度比較すると、フルタイム務め人では、「スキルのある指導員がいる」が 10.0%、「指導員の人数の充実」が 17.2%減少しています。

【今後の学童保育に向けて】

学童保育に対する期待度と満足度からみる課題抽出

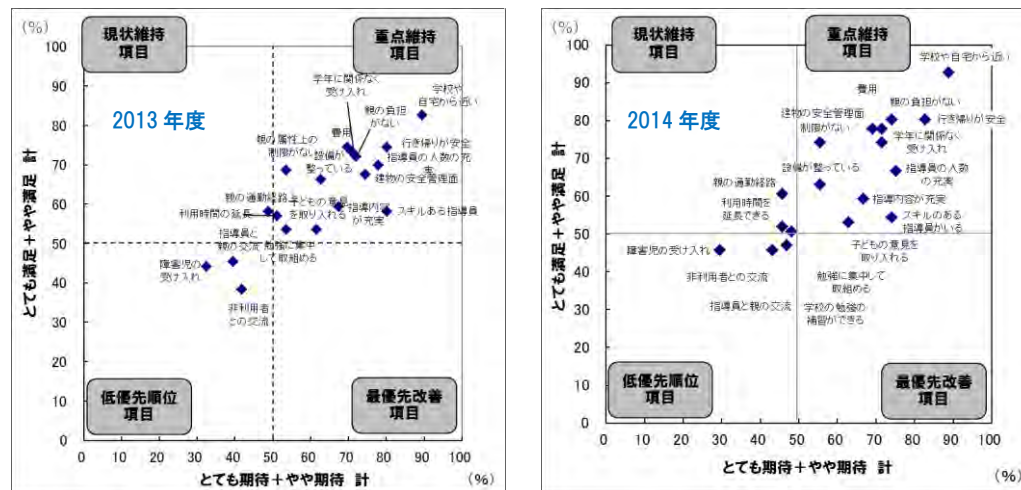
学童保育に対する期待度(『とても期待』『やや期待』の合計)と、満足度(『とても満足』『やや満足』の合計)の2つの指標を用いて、CSポートフォリオ(「期待度」と「満足度」の2つの視点にもとづく各項目の分布から、今後の対応課題を抽出する)を作成。

【地域別比較 (首都圏)】



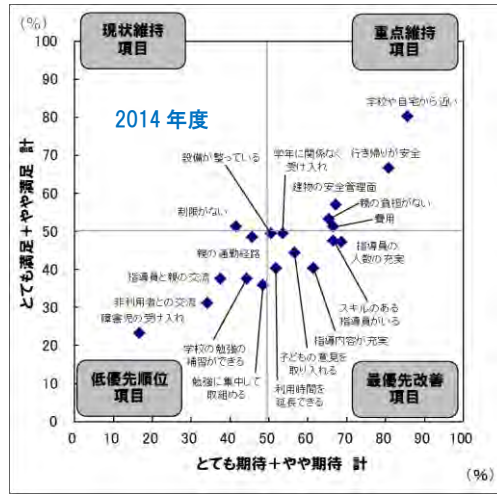
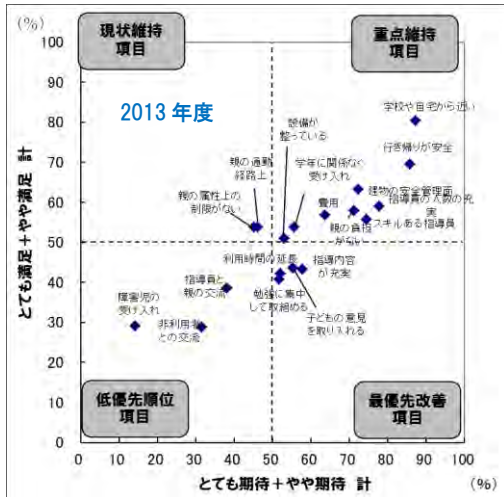
- ✓ 首都圏では、「スキルのある指導員がいる」「指導内容が充実」「子どもの意見を取り入れる」「利用時間を延長できる」などが、『最優先改善項目』に位置しています。
- ✓ 前年度と比較すると、「指導内容が充実」「子どもの意見を取り入れる」「利用時間を延長できる」が継続して『最優先改善項目』に位置しています。

【家計形態別 (専業主婦世帯)】



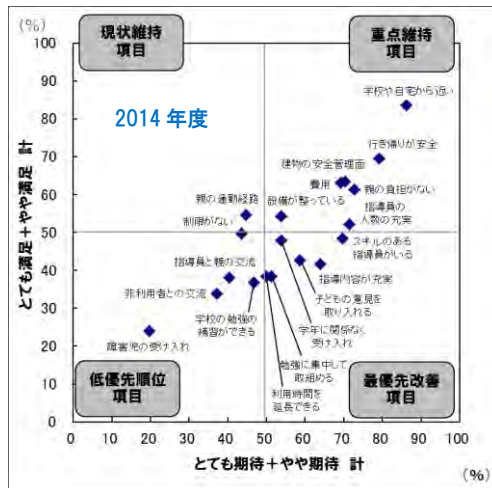
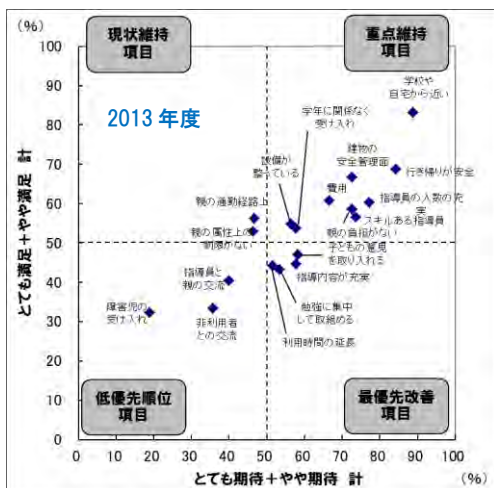
- ✓ 専業主婦世帯では、顕著な『最優先改善項目』は、2013年度・2014年度ともに、見られません。

【家計形態別（共稼ぎ世帯）】



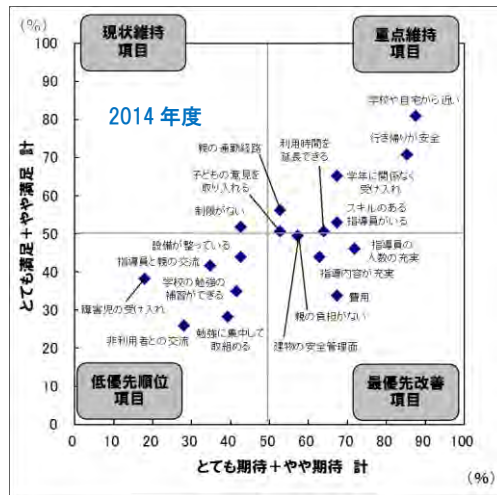
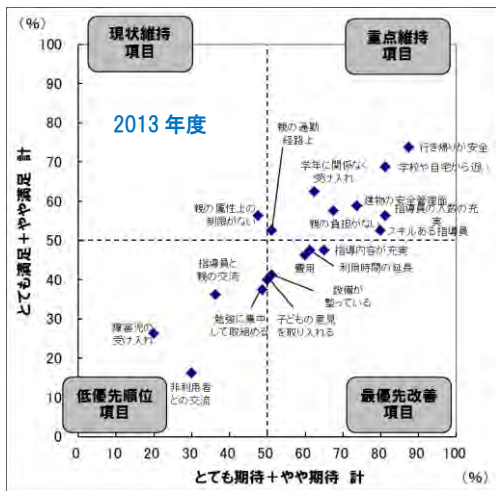
- ✓ 共稼ぎ世帯では、「スキルのある指導員がいる」「指導員の人数の充実」「指導内容が充実」「子どもの意見を取り入れる」「学年に関係なく受け入れ」「利用時間を延長できる」「設備が整っている」などが、『最優先改善項目』に位置しています。
- ✓ 前年度と比較すると、「指導内容が充実」「子どもの意見を取り入れる」「利用時間を延長できる」が継続して『最優先改善項目』に位置しています。

【設立主体別（公設）】



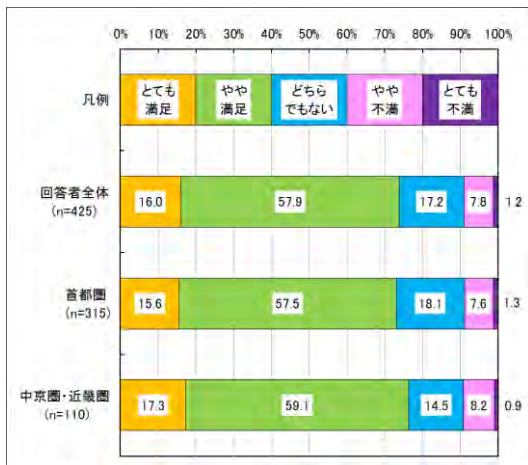
- ✓ 公設では、「スキルのある指導員がいる」「指導内容が充実」「子どもの意見を取り入れる」「学年に関係なく受け入れ」「勉強に集中して取り組める」「利用時間を延長できる」などが、『最優先改善項目』に位置しています。
- ✓ 前年度と比較すると、「指導内容が充実」「子どもの意見を取り入れる」「勉強に集中して取り組める」「利用時間を延長できる」が継続して『最優先改善項目』に位置しています。

【設立主体別（民設）】



- ✓ 民設では、「指導員の人数の充実」「費用」「指導内容が充実」「親の負担がない」「建物の安全管理面」などが、『最優先改善項目』に位置しています。
- ✓ 前年度と比較すると、「指導内容が充実」「費用」が継続して『最優先改善項目』に位置しています。

Q8. 現在通っている学童保育に対する、お子様の満足度はどれくらいだと考えますか？



- ✓ 2014年度における現在通っている学童保育に対する満足度をみると、回答者の16.0%が「とても満足」と答えています。
- ✓ 回答者の73.9%が、「満足」（「とても満足」と「やや満足」の合計）と答えています。

満足度と関連性の高い項目《相関分析》

首都圏

項目	相関係数
指導内容が充実	0.492
スキルのある指導員がいる	0.477
指導員の人数の充実	0.447
子どもの意見を取り入れる	0.383
指導員と親の交流	0.369
設備が整っている	0.315
学校の勉強の補習ができる	0.309
行き帰りが安全	0.306
非利用者との交流	0.303
勉強に集中して取組める	0.296
建物の安全管理面	0.284
学年に関係なく受け入れ	0.267
利用時間を延長できる	0.264
制限がない	0.240
親の負担がない	0.230
費用	0.219
学校や自宅から近い	0.218
親の通勤経路	0.215
障害児の受け入れ	0.208

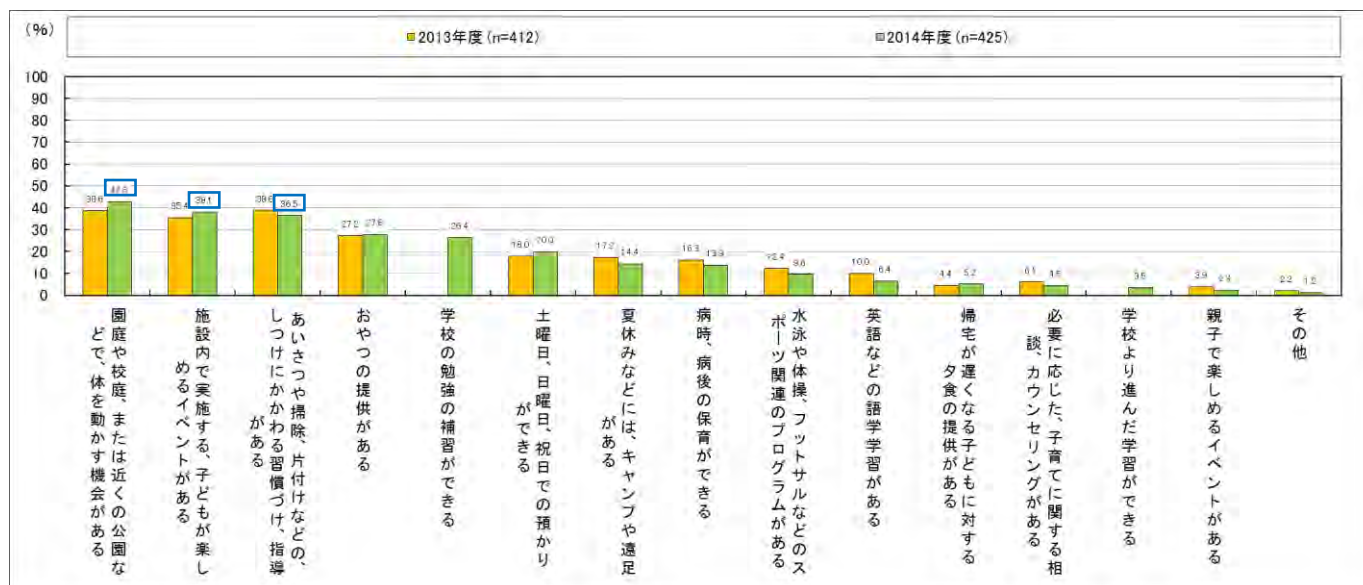
中京圏・近畿圏

項目	相関係数
指導内容が充実	0.483
スキルのある指導員がいる	0.400
子どもの意見を取り入れる	0.374
指導員と親の交流	0.325
非利用者との交流	0.315
勉強に集中して取組める	0.311
利用時間を延長できる	0.282
設備が整っている	0.239
学校の勉強の補習ができる	0.224
学年に関係なく受け入れ	0.202
親の通勤経路	0.194
指導員の人数の充実	0.189
建物の安全管理面	0.161
費用	0.160
行き帰りが安全	0.137
学校や自宅から近い	0.121
親の負担がない	0.086
親の通勤経路	0.063
障害児の受け入れ	0.041
制限がない	0.041

- ✓ 首都圏・中京圏・近畿圏ともに、「お子様の満足度全般」と最も関連性が高いと思われるのは、「指導内容が充実」に対する満足度となっています。
- ✓ 首都圏では、次いで「スキルのある指導員がいる」「指導員の人数の充実」に対する満足度が続きます。

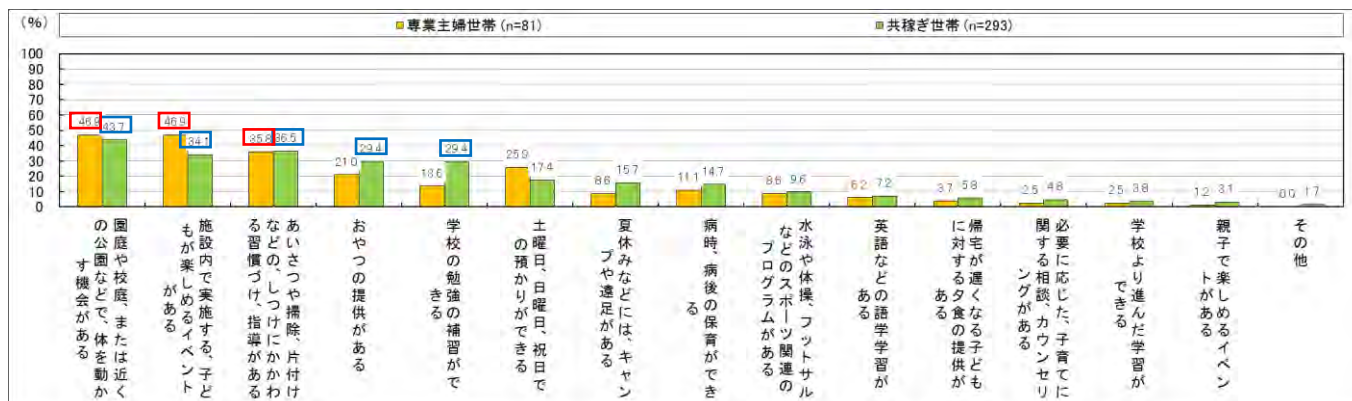
Q8.学童保育にはさまざまなサービス・プログラムがありますが、あなたが学童保育に期待する機能は何ですか。

(回答は3つまで)



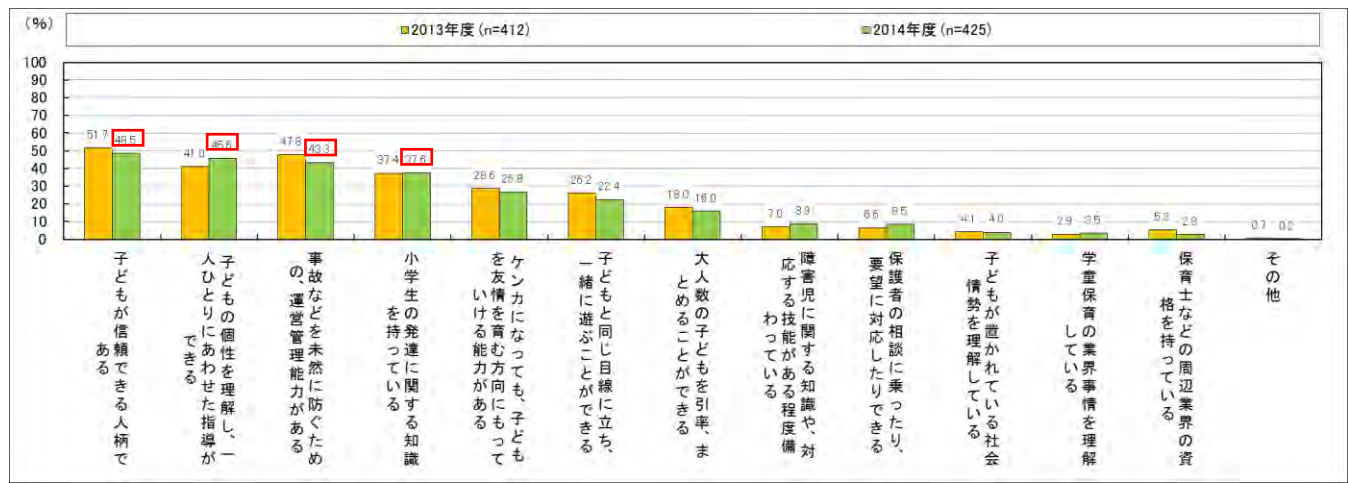
- ✓ 学童保育のサービス・プログラムにおいて、学童保育利用者が特に期待しているのは、「園庭や校庭、または近くの公園などで、体を動かす機会がある」(42.8%)、「施設内で実施する、子どもが楽しめるイベントがある」(38.1%)、「あいさつや掃除、片付けなどの、しつけにかかわる習慣づけ、指導がある」(36.5%)でした。次いで「おやつを提供してくれること」(27.8%)、「学校の勉強の補習ができる」(26.4%)、が続きます。
- ✓ 2013年度と2014年度の各項目における割合を比較しましたが、それぞれの項目には顕著な差異は見られませんでした。

【家計形態別】



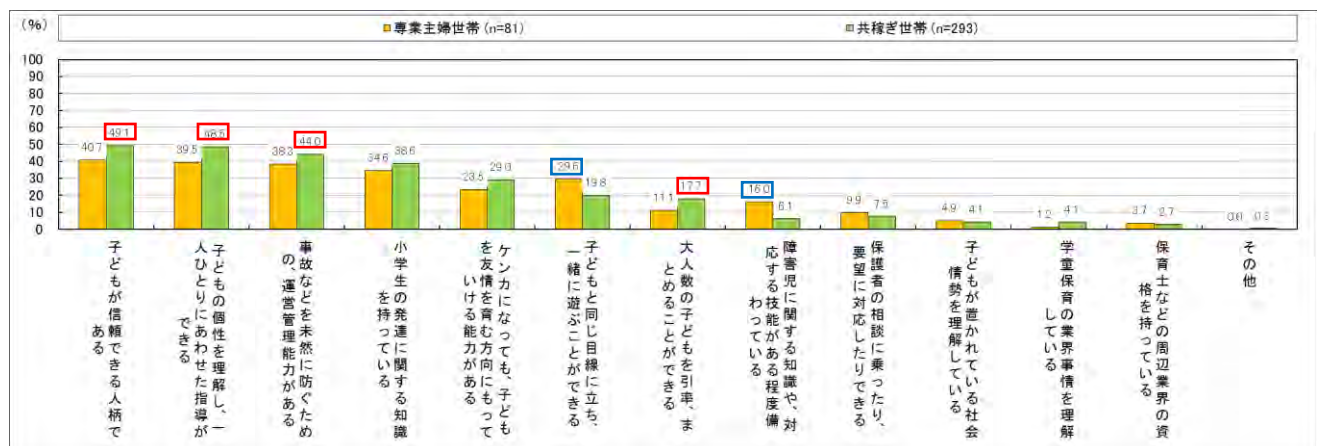
- ✓ 家計形態別では、専業主婦世帯・共働き世帯ともに、「施設内で実施する、子どもが楽しめるイベントがあること」、「園庭や校庭、または近くの公園などで、体を動かす機会がある」、「あいさつや掃除、片付けなどの、しつけにかかわる習慣づけ、指導がある」を期待しています。
- ✓ 共稼ぎ世帯と専業主婦世帯を比べると、共稼ぎ世帯は、「おやつを提供」(29.4%)、「学校のべ今日の補習ができる」(29.4%)が、専業主婦世帯よりも、高い割合を示しています。

Q9.あなたが、学童保育の指導員に対して期待することは何ですか。(回答は3つまで)



- ✓ 学童保育の指導員に対する期待をみると、「子どもが信頼できる人柄」(48.5%)、「子どもの個性を理解し、一人ひとりにあわせた指導ができる」(45.6%)、「事故などを未然に防ぐための運営管理能力がある」(43.3%)を期待しています。次いで、「小学生の発達に関する知識を持っている」(37.6%)が挙げられています。
- ✓ 2013年度と2014年度の各項目における割合を比較しましたが、それぞれの項目には顕著な差異は見られませんでした。

【家計形態別】



- ✓ 家計形態別に比較すると、「子どもが信頼できる人柄」「子どもの個性を理解し、一人ひとりにあわせた指導ができる」「事故などを未然に防ぐための運営管理能力」「大人数の子どもをまとめることができる」では、共稼ぎ世帯の方が専業主婦世帯よりも高い割合を示しています。
- ✓ 「子どもと同じ目線に立ち、一緒に遊ぶことができる」「障害児に関する知識や対応する技能がある」では、専業主婦世帯の方が、共稼ぎ世帯よりも高い割合を示しています。